

新潟市口腔保健福祉センター年次報告（概要）  
（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

1 利用実績

(1) 急患診療

	診療日数	利用患者数	一日平均患者数
令和3年度通年	72日	608人	平均 8.4人
平常の休日	46日	254人	平均 5.5人
連休及び1日飛び休日	19日	208人	平均 10.9人
お盆（平日）	2日	27人	平均 14.0人
お盆（休日）	1日	7人	平均 7.0人
年末	1日	40人	平均 40.0人
年始	3日	72人	平均 24.0人

性別年齢別患者内訳

	男	女	計
6歳未満	33	19	52
6～17歳	39	14	53
18～64歳	210	164	374
65歳以上	63	66	129
計	345	263	608

(人)

年間利用患者数は608人で、前年の576人とほぼ同じだったが、コロナ禍前の一昨年  
の1075人と比較し、利用者数は減少が続いている。一日平均患者数は8.4人で前年  
の7.9人とほぼ同じだった。新型コロナウイルス感染症の影響が、依然として続い  
ていると考えられる。特に県外の利用者は少なく、年間で16名だった。年齢別内  
訳は、ほぼ例年通りで19歳～64歳が62%であった。疾病別では、う蝕、そ  
の他（炎症性疾患、義歯関連など）、歯周疾患の順で多かった。三次医療機関  
への紹介数は6件だった。

(2) 特別診療

	診療日数	半日診療回数	利用患者数	半日平均患者数
令和3年度通年	194日	243回	1769人	平均 7.3人

性別年齢別患者内訳	男	女	計
6歳未満	36	0	36
6～17歳	293	124	417
18～64歳	675	460	1135
65歳以上	92	89	181
計	1096	673	1769

(人)

障がい別患者内訳	(人)
知的障害	643
発達障害	572
精神疾患	46
神経難病	11
染色体異常	181
感覚障害	4
認知障害	75
四肢麻痺	227
その他	10

年間のべ患者数は1769人で、昨年  
の1593人に比べて増加し、コロナ  
禍前の一昨年

利用者数1733名とほぼ同じだった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りであった。疾患別のべ患者数は、例年同様、う蝕と歯周疾患がほとんどであった。障がい別患者内訳は、知的障がい、発達障がいがほぼ同程度で多かった。

往診（摂食嚥下評価）は、対象施設は介護老人保健施設「緑樹苑」、特別養老ホーム「黒崎の里」、特別養護老人ホーム「まつはま園」、特別養護老人ホーム「ばんだい桜園」、介護老人保健施設「白根ヴィラガーデン」の5施設を対象とし、月2回往診を行った。年間のべ往診患者数は96人だった。

## 2 利用料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

別紙参照

## 3 総括・自己評価

急患診療、特別診療ともに大きなトラブルはなく、業務を行うことができた。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら診療を行った。

特別診療における今年度の一次、二次及び三次医療機関への紹介数は、それぞれ4件、0件、18件、合計22件であった。今後も、他医療機関との連携体制の構築を図り、二次医療機関としての役割を果たしていきたい。

往診（摂食嚥下機能評価）は月2回実施し、1回の往診につき2から3回、嚥下内視鏡（VE）を用いた嚥下評価を行っている。地域で摂食嚥下障害に対応できる人材育成を目的とした往診時の歯科医師の帯同は、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

「高齢者福祉施設・障がい者福祉施設に対する歯科保健事業」の口腔健診・研修事業の実施件数及び実施数は20施設、281人だった。口腔ケア研修事業の実施件数及び実施数は18施設、224人で、開催形式は、訪問形式が16施設、オンライン形式が2施設だった。両事業とも実施後のアンケートは、好評だった。集合型の口腔ケア研修会は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン形式で実施した。参加者は28名で、参加者の所属内訳は訪問介護5名、訪問看護3名、その他・不明が20名だった。オンライン形式での開催は好評だった。